

ギャラリー ⑥

「もの言はぬ野夫」



今関啓司作 1925(大正14)年 紙・コンテ 35.0cm×25.2cm
小杉放菴記念日光美術館所蔵

このコーナーでは、市で所有する絵画を紹介します。

今関啓司(1893～1946年)は、現在の千葉県長生郡に生まれた画家です。日本美術院研究所で絵画を学び、1916年の第3回再興院展に初入選。その後、小杉放菴らの設立した春陽会で活躍、日本各地を放浪しながら数多くの油彩画や水墨画を描き、その融合を目指しました。

「もの言はぬ野夫」は、1925年の春、今関が32歳の時に描かれた素描(デッサン)です。力強いタッチは、どこか孤独な感じのする男の存在感を浮彫りにし、瞳に深みを与えています。野夫には田野に出て働く男のほか、自分を卑下するという意味があり、この男性は、もしかすると今関の自画像なのかもしれません。今関は、この年の日記に「俺れは又ひとりになりたい。俺れ自身内の土に還へりたい。全き唯一なる世界へおちのびたい。無言の何ものにもふりかへり見ない、俺れ自身内の道に」と書いています。

この素描からは、今関の抱えていたこうした満たされぬ孤独感、表現への飢餓感を感じとることができ、彼が優れた素描家でもあったことを示しています。

日光市の文化財 ③

かけなしの遺跡



【種別】史跡
【所在】日光市所野
昭和49年6月6日旧日光市指定

小倉山森林公園の林の中にあります。

日光は、山岳信仰と仏教が融合した修験道場として、古くから厳しい山岳修行が盛んに行われていました。行者らが修行を終えて山から出ることを、駆け出しといひ、かけなしの遺跡の名称は、ここが室町時代の修行コースの終着の宿として、霊地の一つとなっていたことに由来しており、その本来の意味が失われて「かけなし」と呼ばれるようになったとされています。その後、ここは宿の衰退に伴って修行の霊地としての意味を失い、庶民に親しみのある地藏信仰の場へと変化していきま

した。
昭和五〇年に所野自治会などの手によって、江戸時代にあった庵が再建され、現在に至っています。



滝平二郎と斎藤隆介

滝平二郎と斎藤隆介をご存知ですか。滝平は、惜しくも今年の5月に亡くなった切り絵作家で、斎藤は、昭和60年に亡くなった著名な児童文学作家です。

滝平の挿絵と斎藤の文章で多くの絵本が作られました。「花さき山」、「モチモチの木」、「ベロ出しチョンマ」などを挙げれば思い出される方も多いのではないのでしょうか。これらの絵本は、切り絵の挿絵があることでほかの絵本とは異なる表情をみせてくれます。

今回は、これらの絵本の中から、「半日村」を紹介します。物語は、『村の後ろに高い山があるために、1日の半日しか日が当たらない村があった。作物は半分しかできないし、「あの山さえなかったら...」という思いでいる村人は青い顔で元気がなかった。そんなとき、大人たち



の話聞いた子どもの一平が毎日少しずつ山の土を崩し始めて...。最初は笑っていた大人も子どもも手伝いはじめ、長年のうちに山が低くなって村に日が当たるようになり、「一日村」と呼ばれるようになったというものです。登場人物が使った言葉には独特の温かさや人々の忍耐強さが表現されています。また、場面に応じた背景の色、子どもたちの表情の豊かさ、人々の絶望から希望へ向かう表情の変化が切り絵によって表現されています。

あつた人と人とのつながり。今の時代で、忘れがちなことを思い出させてくれる作品です。絵本や短編の中には、作者の思いが凝縮された作品があります。新しい本だけでなく、長く読み継がれてきた絵本も読んでみてはいかがでしょうか。

市民文芸

川柳 選者 山本都留米

触る足間違えている堀ゴタツ 石川みかん
口だけは強いが足腰弱くなり 倉沢江美子
酔ってなどいないという彼千鳥足 小島幸子
怒るほどそっぽ向かれる反抗期 篠原芳子
新築に顔だけ笑う両隣 塚原トモエ
風鈴が年中聞える過疎の町 酒井喜麿
セールの菌の浮く様な世辞も言い 湯沢和

俳句 選者 伊藤 清

秋の夜やハイネの詩集読み耽る 渡辺ミチ子
下腹にずしんと応ふ火花咲く 池田三夫
草を引く土と対話をする如く 星野恒志
磨かれて坊ちゃん南瓜金ラベル 鈴木キヌ子
鉄持ち見上げる薔薇に青い空 高橋忠吉
尺取りの逃げるも歩すも尺を取る 荒井境子
湖の波子守唄としキャンプの夜 星 陽子

短歌 選者 阿久津伸一

君は花火思いの丈を轟かせ見つむる 心に夢を振りまく 関根眞佐子
共に古い炬燵に寄り添う姉と猫梅雨 寒き日は来る人もなしと 根立郷美
木の箸を上手に使い飯を食むわれら 弥生の末裔とし生きて 名古屋佳子
息を止めボートでイグアス突つ込み びしょ濡れ夫としばし燥ぎぬ 福田きくい
追憶は裸足で遊ぶ飢餓の日々語り継ぐべし戦争の傷跡 大森トミ子
焼けただれ無惨な姿そのままに原爆ドームに真夏の日は照る 和田よし
利尻岳背負いて立てる弟の笑顔の写真抱きて登る 北崎 君

作品を募集しています!

川柳・俳句・短歌のを募集しています。氏名(ふりがな)、住所、電話番号を明記して、ご応募ください。
応募先及びくわしくは
秘書広報課 広報広聴係
☎(21)5135・FAX(21)5109